

## 審美領域における即時荷重 vs 待時荷重



**Immediate versus delayed treatment in the anterior maxilla using single implants with a laser-microtextured collar: 3-year results of a case series on hard- and soft-tissue response and esthetics.**

カラー部にレーザー微小溝を持つ単独歯インプラントの上顎前歯部位への埋入における即時埋入 vs 待時埋入について

Renzo Guarneri, MD, DDS, Fabrizio Belleggia, DDS, & Maurizio Grande, DDS.  
*Journal of Prosthodontics, Volume 25, Issue 2, February 2016. p.135-145.*



図1. IITの例。(A) 初診時；(B) 抜歯窩頬側面観；(C) 抜歯窩咬合面観；(D) インプラント埋入；(E) 即時暫間補綴装置の頬側面観；(F) 4ヶ月後の暫間補綴装置の頬側面観；(G) 最終補綴装置装着時の組織頬側面観；(H) 最終補綴装置装着時の組織咬合面観；(I) 最終補綴装置装着3年後の頬側面観

### 目的

条件設定に該当する患者の上顎審美領域単独歯欠損に対して行った即時埋入インプラント治療 (IIT) および待時埋入インプラント治療 (DIT) 後の、インプラント周囲の辺縁骨吸収、軟組織変化および審美性を比較する。

### 材料と方法

十分な骨量および理想的な軟組織のレベル・形態はインプラント治療の必要条件と考えられた。IITにはさらに、残存歯槽骨壁に欠損部分がないことおよび歯肉が厚いパイオタイプであることを必要条件とした。IITでは即時埋入および即時暫間補綴、DITでは抜歯窩保存を行った後にインプラントを埋入し、更にその4ヶ月後に暫間補綴を行った。一定間隔にて、皮質骨のレベルおよびインプラント周囲粘膜の状態を評価した。ピンクエステティクスコア (PES) およびホワイトエステティクスコア (WES) を用いて、審美結果の客観的評価を行った。

### 結果

12名の患者にLaser-Lok<sup>®</sup>インプラントを即時埋入し、13名の患者に同インプラントを待時埋入した。残存率(100%)については研究グループ間で有意差は見られなかった。3年後のインプラント-アパットメント界面から骨レベルまでの平均距離は、IITで0.35 ± 0.18 mm、DITで0.42 ± 0.21 mmであった (p > 0.05)。DITにおいて、近心および遠心の歯間乳頭は経時的に安定していた。IITについては、近心および遠心の歯間乳頭が再生する傾向が見られた (p < 0.05)。顔面正中の軟組織は、DIT、IITともに経時的に安定していた。

### 結論

本研究には制限 (標本が小さい、フォローアップ期間が短い) があるものの、今回のような条件設定をした場合、残存率、硬軟組織変化および審美性に関して、単独歯Laser-Lok<sup>®</sup>インプラントを用いた上顎前歯部へのDITおよびIITは同程度で予知性のある治療のオプションとなることが示唆された。